



アインシャムス大学

外国語学部

日本語学科

平成 27 年度（2015 年）修士論文

日本語とアラビア語における「不満表明」に関する考察
—大学生を対象に—

研究者

マリーナ・バハー・ラフラ・アサド

指導教官

ムハンマッド・エルアブド教授

アインシャムス大学外国語学部

アラビア語学科

ハーネム・アフマド講師

カイロ大学文学部

日本語日本文学科

目次

要旨	10
序論	14
I. 研究背景	14
II. 本論文の構成	15
第1章 先行研究と本研究の目的	17
1.1. 「語用論」の定義	18
1.2. 「言語行動」とは	19
1.3. 山岡（2008）の「発話機能理論」について	21
1.4. 「不満表明」に関する先行研究	27
1.4.1. 「不満表明」の定義	27
1.4.2. 語用論の諸理論の観点から見られた「不満表明」	27
1.4.3. 先行研究における不満表明ストラテジー	29
1.4.4. 先行研究の成果	35
1.5. 本研究の位置づけと研究課題	45
1.6. 研究の目的と意義	46
第2章 研究方法	48
2.1. ロールプレイについて	49
2.2. 本調査の概要及び内容	50
2.2.1. アンケート調査—準備調査	50
2.2.2. 予備調査	52
2.2.3. ロールプレイ調査—本調査	53
2.2.4. フォローアップ調査	55

2.3.調査対象者及び実施時	56
2.4. データ収集方法	57
2.5.分析手順	57
2.5.1. 会話の文字化の方法	58
2.5.2.アラビア語の談話の日本語訳のルール	58
2.5.3. 本研究における発話機能及び下位ストラテジーの分類	58
第3章 分析と考察 I :場面1の「発話機能論」による談話展開の分析の結果	61
3.1. 会話をしなかった協力者	62
3.2. 不満談話を開始する参加者	63
3.3. 不満度に関して	64
3.4. 約束の時間に45分遅れた親しい相手による談話展開の全体的傾向	65
3.4.1. アラビア語エジプト方言のデータ	65
3.4.2. 日本語のデータ	84
3.5. 親しい相手に対するアラビア語エジプト方言と日本語の不満談話を対照した結果と考察...	97
3.5.1.アラビア語エジプト方言の親しい相手に対する不満談話の全体的傾向	97
3.5.2.日本語の親しい相手に対する不満談話の全体的傾向	99
3.5.3.アラビア語エジプト方言と日本語の親しい相手に対する不満談話の対照結果	101
3.6. 親しい相手に対するアラビア語エジプト方言と日本語の男女別による不満談話を対照した結果と考察	105
3.6.1. アラビア語エジプト方言の親しい相手に対する不満談話の男女別による傾向.....	105
3.6.2. 日本語の親しい相手に対する不満談話の男女別による傾向	107
3.6.3.アラビア語エジプト方言と日本語の親しい相手に対する男女別による不満談話の対照結果	109

第4章 分析と考察Ⅱ:場面2の「発話機能論」による談話展開の分析の結果	111
4.1. 会話をしなかった協力者	112
4.2. 不満談話を開始する参加者	113
4.3. 不満度に関して	113
4.4. 約束の時間に45分遅れた親しくない相手による談話展開の全体的傾向	115
4.4.1. アラビア語エジプト方言のデータ	115
4.4.2. 日本語のデータ	134
4.5. 親しくない相手に対するアラビア語エジプト方言と日本語の不満談話を対照した結果と考察	147
4.5.1. アラビア語エジプト方言の親しくない相手に対する不満談話の全体的傾向	147
4.5.2. 日本語の親しくない相手に対する不満談話の全体的傾向	150
4.5.3. アラビア語エジプト方言と日本語の親しくない相手に対する不満談話の対照結果	151
4.6. 親しくない相手に対するアラビア語エジプト方言と日本語の男女別による不満談話を対照した結果と考察	156
4.6.1. アラビア語エジプト方言の親しくない相手に対する不満談話の男女別による傾向	156
4.6.2. 日本語の親しくない相手に対する不満談話の男女別による傾向	158
4.6.3. アラビア語エジプト方言と日本語の親しい相手に対する男女別による不満談話の対照結果	160
第5章 結果考察と今後の課題	162
5.1. 本論のまとめ	163
5.2. 結果の考察	163
5.2.1. 類似点	163
5.2.2. 相違点	165
5.3. 今後の課題	169

謝辞.....	169
本研究の参考文献一覧.....	171
I. 日本語の参考文献.....	171
II. 英語の参考文献：.....	174
III. アラビア語の参考文献.....	176
付録.....	179
付録【1】 アンケートのまとめ.....	180
付録【2】	195
本研究の文字化の方法.....	195
付録【3】	198
「不満表明」の発話機能の分類一覧表.....	198
付録【4】	217
エジプト人アラビア語母語話者の会話の文字化.....	217
付録【5】	274
日本語母語話者の会話の文字化.....	274

図表目次

[図 1.1] 行動学の分類	20
[表 1.1] 山岡の発話機能	25
[表 1.2] 崔東花 (2009) の不満を言う側の発話機能	34
[表 1.3] 崔東花 (2009) の不満を言われる側の発話機能	34
[図 1.2] ソムチャナキット (2010) による不満表明ストラテジーの分類 (ソムチャナキット 2013、P.30)	35
[表 1.4] 比較文化の先行研究の分類	36
[図 1.3] 日本語の不満表明と謝罪の談話	42
[図 2.1] エジプト人アラビア語母語話者 (EANS) の不満場面に対するアンケートの結果	51
[図 2.2] 日本語母語話者 (JNS) の不満場面に対するアンケートの結果	51
[表 2.1] 本調査のロールプレイの場面の状況設定	54
[表 2.2] 参与者 A の《非難》の発話機能の下位ストラテジー	59
[図 3.1] 場面 1 : 各不満度の割合	64
[表 3.2] 場面 1 : 不満を言う側 (A1) が談話の最初に用いた発話機能 (アラビア語エジプト方 言)	66
[図 3.2] 場面 1 : 不満を言う側 (A1) が最初に用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジーの 出現率 (アラビア語エジプト方言)	68
[表 3.3] 場面 1 : 不満を言われる側 (B1) の反応 (アラビア語エジプト方言)	69
[図 3.3] 場面 1 : 不満を言われる側 (B1) が反応として使用する《自己弁護》の下位ストラテジ ーの出現率 (アラビア語エジプト方言)	70
[表 3.4] 場面 1 : 不満を言われる側 (B1) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A2) の 反応に用いられた発話機能 (アラビア語エジプト方言)	71
[図 3.4] 場面 1 : 不満を言う側 (A2) が反応として用いた《非難》の発話機能の下位ストラテ ジーの出現率 (アラビア語エジプト方言)	73
[表 3.5] 場面 1 : 不満を言われる側 (B2) の反応 (アラビア語エジプト方言)	74

[図 3.5] 場面 1：不満を言われる側 (B2) が反応に用いた《自己弁護》の発話機能の下位ストラテジーの出現率 (アラビア語エジプト方言)	75
[表 3.6] 場面 1：不満を言われる側 (B2) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A3) が反応に用いた発話機能 (アラビア語エジプト方言)	76
[図 3.6] 場面 1：不満を言う側 (A3) が反応として用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジーの出現率 (アラビア語エジプト方言)	78
[表 3.7] 場面 1：不満を言われる側 (B3) の反応 (アラビア語エジプト方言)	79
[図 3.7] 場面 1：不満を言われる側 (B3) が反応として使用する《自己弁護》の下位ストラテジーの出現率 (アラビア語エジプト方言)	80
[表 3.8] 場面 1：不満を言われる側 (B3) の責任承認・責任回避に対して不満を言う側 (A4) が反応に用いた発話機能 (アラビア語エジプト方言)	81
[図 3.8] 場面 1：不満を言う側 (A4) が反応に用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジーの出現率 (アラビア語エジプト方言)	82
[表 3.9] 場面 1：不満を言われる側 (B4) の反応 (アラビア語エジプト方言)	83
[図 3.9] 場面 1：不満を言われる側 (B4) が反応として使用する《自己弁護》の下位ストラテジーの出現率 (アラビア語エジプト方言)	83
[表 3.10] 場面 1：不満を言われる側 (B1) が談話の最初に用いた発話機能 (日本語)	84
[表 3.11] 場面 1：不満を言われる側 (B1) の責任承認に対する不満を言う側 (A1) の反応 (日本語)	85
[図 3.10] 場面 1：不満を言う側 (A1) が最初に用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジーの出現率 (日本語)	87
[表 3.12] 場面 1：不満を言われる側 (B2) の反応 (日本語)	88
[図 3.11] 場面 1：不満を言われる側 (B2) が反応として使用する《自己弁護》の下位ストラテジーの出現率 (日本語)	89
[表 3.13] 場面 1：不満を言われる側 (B2) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A2) の反応に用いた発話機能 (日本語)	90
[図 3. 12] 場面 1：不満を言う側 (A2) が反応に用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジーの出現率 (日本語)	91

[表 3.14] 場面 1 : 不満を言われる側 (B3) の反応 (日本語)	92
[表 3.15] 場面 1 : 不満を言われる側 (B3) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A3) の反応に用いた発話機能 (日本語)	93
[図 3.13] 場面 1 : 不満を言う側 (A3) が反応としてに用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジーの出現率 (日本語)	94
[表 3.17] 場面 1 : 不満を言われる側 (B4) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A4) の反応に用いた発話機能 (日本語)	96
[表 3.18] 場面 1 : 不満を言われる側 (B5) の反応 (日本語)	97
[図 3.14] アラビア語エジプト方言の不満談話の展開 (親友との会話の場合)	98
[図 3.15] 日本語の不満談話の展開 (親友との会話の場合)	100
[表 4.1] 場面 2 の不満談話を開始する参加者	113
[図 4.1] 場面 2 : 各不満度の割合	114
[図 4.2] 場面 2 : 不満を言う側 (A1) が最初に用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジー (アラビア語エジプト方言)	117
[表 4.3] 場面 2 : 不満を言われる側 (B1) の反応 (アラビア語エジプト方言)	118
[図 4.3] 場面 2 : 不満を言われる側 (B1) が反応として使用する《自己弁護》の下位ストラテジー (アラビア語エジプト方言)	119
[表 4.4] 場面 2 : 不満を言われる側 (B1) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A2) の反応に用いた発話機能 (アラビア語エジプト方言)	120
[図 4.4] 場面 2 : 不満を言う側 (A2) が反応に用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジー (アラビア語エジプト方言)	122
[表 4.5] 場面 2 : 不満を言われる側 (B2) の反応 (アラビア語エジプト方言)	123
[図 4.5] 場面 2 : 不満を言われる側 (B2) が反応として使用する《自己弁護》の下位ストラテジーの出現率 (アラビア語エジプト方言)	125
[表 4.6] 場面 2 : 不満を言われる側 (B2) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A3) の反応に用いた発話機能 (アラビア語エジプト方言)	126
[図 4.6] 場面 2 : 不満を言う側 (A3) が反応として用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジーの出現率 (アラビア語エジプト方言)	127

[表 4.7] 場面 2 : 不満を言われる側 (B3) の反応 (アラビア語エジプト方言)	128
[表 4.8] 場面 2 : 不満を言われる側 (B3) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A4) の 反応に用いた発話機能 (アラビア語エジプト方言)	130
[図 4.8] 場面 2 : 不満を言う側 (A3) が反応に用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジー の出現率 (アラビア語エジプト方言)	132
[表 4.9] 場面 2 : 不満を言われる側 (B4) の反応 (アラビア語エジプト方言)	133
[表 4.10] 場面 1 : 不満を言われる側 (B1) が談話の最初に用いた発話機能 (日本語)	134
[表 4.11] 場面 2 : 不満を言う側 (A1) が談話の最初に用いた発話機能 (日本語)	135
[図 4.10] 場面 2 : 不満を言う側 (A1) が最初に用いた《非難》の発話機能の下位ストラテジー の出現率 (日本語)	137
[表 4.12] 場面 2 : 不満を言われる側 (B2) の反応 (日本語)	138
[図 4.11] 場面 2 : 不満を言われる側 (B2) が反応として使用する《自己弁護》の下位ストラテ ジーの出現率 (日本語)	139
[表 4.13] 場面 2 : 不満を言われる側 (B2) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A2) の反応に用いた発話機能 (日本語)	140
[図 4.12] 場面 2 : 不満を言う側 (A2) が反応としてに用いた《非難》の発話機能の下位ストラ テジーの出現率 (日本語)	141
[表 4.14] 場面 2 : 不満を言われる側 (B3) の反応 (日本語)	142
[表 4.15] 場面 2 : 不満を言われる側 (B3) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A3) の反応に用いた発話機能 (日本語)	143
[表 4.16] 場面 2 : 不満を言われる側 (B4) の反応 (日本語)	144
[表 4.17] 場面 2 : 不満を言われる側 (B4) の責任承認・責任回避に対する不満を言う側 (A4) の反応に用いた発話機能 (日本語)	145
[表 4.18] 場面 2 : 不満を言われる側 (B5) の反応 (日本語)	146
[図 4.13] アラビア語エジプト方言の不満談話の展開 (親しくない相手との会話の場合)	148
[図 4.14] 日本語の不満談話の展開 (親しくない相手との会話の場合)	150
[表 4.19] 場面 2 : 男女別による不満談話の展開の傾向 (アラビア語エジプト方言)	157
[表 4.20] 場面 2 : 男女別による不満談話の展開の傾向 (日本語)	159

要旨

キーワード：不満表明、言語行動、発話機能理論、下位ストラテジー、不満談話、一連の会話

「不満表明」は、人間関係に摩擦を生じやすい行為であり、文化や言語によって違いがあると考えられる。日本語の先行研究では、どのようなストラテジーが存在するかについては分析されているが、不満表明に関するアラビア語と日本語の対照研究は管見の限り見当たらない。本研究では、20代前後の大学生のエジプト人アラビア語母語話者(EANS)と日本語母語話者(JNS)の調査協力者全140名(EANSが100名・50組、JNSが40名・20組)を対対象に、親疎関係を中心にしたロールプレイ調査を行い、アラビア語(エジプト方言を中心に)及び日本語の計130の会話を録音し、それらを文字化した会話資料に基づき、エジプト人アラビア語母語話者と日本語母語話者の「不満表明」の言語行動とそれに対する応答という不満談話の特徴を「発話機能理論」の観点から考察した。(1)不満表明が行われている場面に対する不満の程度、(2)不満談話を行うか行わないか、(3)不満談話の開始、展開、終了に見られた発話機能の出現率、さらに両者が使用した「不満表明」の発話機能の下位ストラテジー、(4)不満を言う側と言われる側の発話の傾向、(5)不満談話の長さ、(6)不満談話の展開段階から談話終了まで使用された「発話機能論」の原理である一連の会話という6点の観点から両言語の不満談話の特徴を考察するのを目的としている。その後、先述した6点の観点からアラビア語エジプト方言と日本語と対照しつつ、類似点と相違点を考察し、アラビア語エジプト方言と日本語の不満談話の特徴を男女別の観点からも分析した。本研究で結論づけられた結果は、1)～8)のようにまとめられる。

1. アラビア語エジプト方言と日本語ともに、相手との親疎関係に変わりなく、両言語の母語話者の参与者Aが選んだ不満度は非常に高いことが明らかになった。
2. アラビア語エジプト方言と日本語ともに、相手との親疎関係に変わりなく、不満の感情を隠すよりは表明した方が傾向が高い。
3. 不満談話を開始する参与者に関して、親しい相手に対する場合と親しくない相手に対する場合、アラビア語エジプト方言においては、Aによって不満談話が開始される方が圧倒的に多い。その一方、日本語においては、Bによって不満談話が開始される方が多いことが分かる。このことから、アラビア語エジプト方言では、不満を言われる側は、最初から自分の非を認

めず、相手から攻める話を待つことが多いことが分かる。その一方、日本語では、不満を言われる側は、最初から自分が起こした非を認め、責任を承認するほうが多いことが分かる。

4. 不満を言う側の発話の傾向に関しては、次のような結果が明らかになった。アラビア語エジプト方言では、相手との親疎関係に変わりなく、不満を言う側が、不満を言われる相手の発話に対し、A1 から A4 まで《非難》の明示的不満表明による発話機能を共通的に使用する。しかし、日本語では、相手と親しい場合、不満を言う側が、不満を言われる相手の発話に対し、A1 から A4 まで《非難》の明示的不満表明による発話機能を共通的に使用するのに対し、相手と親しくない場合、日本語の不満を言う側が《忌避》による非明示的不満表明による発話機能を共通的に使用する。つまり、不満を言う側の発話の傾向に関しては、アラビア語エジプト方言では、相手との親疎関係に変わりなく、非明示的不満表明より明示的不満表明による発話機能の方が使用傾向が高いのに対し、日本語では親しい相手に対して非明示的不満表明より明示的不満表明による発話機能の方が使用傾向が高いが、親しくない相手に対して明示的不満表明より非明示的不満表明による発話機能の方が高い。
5. 不満を言われる側の発話の傾向に関しては、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、1 回目の発話から 5 回目の発話まで、アラビア語エジプト方言より日本語のほうが責任承認の使用傾向が高いことが明らかになった。アラビア語エジプト方言では、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、会話の全体の流れに、責任承認より責任回避による発話機能の使用の方が好まれている。しかし、日本語では、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、会話の流れの全体に不満を言われる側が責任回避よりは責任承認による発話機能を使用する方が好まれている。また、アラビア語エジプト方言では、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、不満を言われる側が、不満を言う相手の発話に対し、《自己弁護》の責任回避による発話機能を共通的に使用する。その一方、日本語では、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、不満を言われる側が、不満を言う相手の発話に対し、《謝罪》の責任承認による発話機能を共通的に使用する。
6. 会話の終了に関しては、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、両言語ともに、アラビア語エジプト方言と日本語の不満を言う側(A)は、不満談話の流れの全体において、不満を言われる側(B)の責任回避による発話より責任承認による発話に対してのほうが沈黙をすることが見られた。また、相手と親しい場合、両言語ともに、不満を言われる側(B)については、相手と親しい場合、不満談話の流れの全体において、不満を言う側(A)の非明示的不満表明による発話より、明示的不満表明による発話に対してのほうが、沈黙をしているの

に対し、相手と親しくない場合、不満を言う側(A)の明示的不満表明による発話より、非明示的不満表明による発話に対してのほうが沈黙をしていることが見られた。以上のことから、両言語ともに、親しい相手に対する不満談話は、Bによって終わる場合一連や共通の目的などがあり、成功した談話だが、Aによって終わる場合、一連や共通の目的などがなく、成功しなかった談話だと考えられる。一方、親しくない相手に対する不満談話は、参与者Aの発話によって終わっても、Bの発話によって終わっても一連や共通の目的などがあり、成功した談話だと考えられる。

7. 不満談話の長さに関しては、相手と親しい場合、日本語よりアラビア語エジプト方言のほうが、不満談話自体が長い。このことから、アラビア語エジプト方言では、相手と親しい場合に比べて、相手が親しくない場合は、不満談話が長く続かないのが、親疎関係の遠慮と関係していることが考えられるが、日本語では、相手と親しい場合に比べて、相手が親しくない場合は、不満談話が長く続くのが親疎関係を遠慮することと関連していることが考えられる。
8. 不満談話の一連に関しては、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、アラビア語エジプト方言の不満を言う側と言われる側の間には、共通の目的がなく、各自の話題を持って談話が進んでいく。その一方、日本語の不満を言う側と言われる側の間には、不満談話の全体の流れで、共通の目的を持って談話が進んでいく。

また、男女別の観点から見たアラビア語エジプト方言と日本語における「不満表明」の言語行動の特徴に関しては、以下の7点が明らかになった。

1. 不満を表明するかどうかに関しては、アラビア語エジプト方言では、相手と親しい場合、女性より男性の方が不満を表明することが多いのに対し、日本語では、男性より女性の方が不満を表明することが多いことが分かる。その一方、相手が親しくない場合、両言語ともに、男性と女性ともに、ほぼ同じ割合で不満を表明する。
2. 不満談話の開始に関しては、アラビア語エジプト方言では、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、男性より女性の方が、不満談話を参与者Bの責任承認による発話で開始する可能性がある一方、日本語では、親しい相手に対して男性と女性がほぼ近い割合で不満談話を参与Bの責任承認による発話で開始する方が好まれているが、親しくない相手に対して男性より女性の方が参与Bの責任承認による発話で不満談話を開始する可能性が高い。

3. 男性の不満を言う側の発話の傾向に関しては、両言語ともに、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、非明示的不満表明より明示的不満表明の方が高いことが見られた。
4. 男性の不満を言われる側の発話の傾向に関しては、アラビア語エジプト方言では、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、責任承認より責任回避の方が高いが、日本語では、責任回避より責任承認の方が高いことが見られた。
5. 女性の不満を言う側の発話の傾向は、アラビア語エジプト方言では、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、非明示的不満表明より明示的不満表明の方が高いことが分かるが、日本語では、相手と親しい場合、1・2・3回目の発話は、非明示的不満表明より明示的不満表明による発話機能の使用の方が高いが、4回目の発話は100%で非明示的不満表明による初機能が使用されるのに対し、相手が親しくない場合、女性の不満を言う側の1~4回目の発話の傾向は、明示的不満表明より非明示的不満表明による発話機能の使用の方が高い。
6. 女性の不満を言われる側の発話の傾向に関しては、アラビア語エジプト方言では、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、責任承認より責任回避の方が高いが、日本語では、責任回避より責任承認の方が高いことが分かる。
7. 不満談話の長さに関しては、アラビア語エジプト方言では、相手が親しい場合、男性より女性の方が長い。相手が親しくない場合、会話が長いのは女性より男性の方であることが見られた。その一方、日本語では、相手と親しい場合、親しくない場合どちらの場合でも、会話が長いのは、女性より男性の方で長い。

序論

I. 研究背景

言葉は、人と人のコミュニケーションにとって最大の道具である。しかし、その機能が十分に働かず、何気ない一言で相手を傷つけてしまったり、誤解を与えてしまったりする。さらに、実際のコミュニケーションでは、エジプト人のような異文化を背景とした日本語学習者は、単に日本語を文法的に正しく使えれば円滑なコミュニケーションが図れるというわけではない。日本語としては「誤用」ではなくても、日本文化では受け入れられない「誤用」の問題が出てくることもある。言葉を勉強するだけでなく、その言葉の背景にある文化や社会思想についてもわからないとコミュニケーションはうまくできない。つまり、日本語らしい会話が進まないということである。

そのうえ、コミュニケーションには、言葉だけでなく、表情、視線、声の質、しぐさや距離など、「言葉」以前の要素が大きく関わっている。それは「言語行動」という領域にかかわることである。

現在、筆者は言語行動、特にその中の「不満表明」の仕方に関心を持っている。不満を表明することはそれ自体、他者の感情を害するもので、社会的な関係を対立させる恐れもあると言われている。そのため、不満を表明したいと思っている話し手は、発話をする際、聞き手の社会的、心理的、認知的制約を考慮し、聞き手側も発話を解釈する際に、話し手をそのような発話に導いた社会的制約を考慮せざるを得ない (Tomas1995)。日本語を例にした場合、人間関係を壊すことなく、いかに不満表明をするかということは、日本語母語話者にとっても、難しい課題であると思われる。従って、日本社会や文化にあまり接する機会のないエジプト人日本語学習者にとっては、さらに難しい問題だと言えるであろう。

特にその課題に興味を持つようになったのは、筆者自身が身近に経験したことがいくつかあるからである。その経験の一つは、私費留学生として行った時に経験したアルバイト先での出来事

である。その同僚はほとんどが高校生で、あまり外国人との接触になれていなかったらしく、付き合いがうまくいかず、お互いに嫌な気持ちが生じるようになった。その結果、揉め事のようなものになってしまったのである。嫌がらせを受け、怒りを感じていた筆者が不満を表明したとき、日本人の同僚から予想もしなかったような暴力的な反応をされ、大変驚いた。これがきっかけで、「不満表明」というテーマに興味をわいた。

そのときから、なぜ彼らの反応がそれほどのレベルにまで至ったのか疑問に感じてきたが、様々な不満表明に関する先行研究を調べたことにより、その理由が徐々に明らかになってきた。それは、筆者が母語の転移によるものを使った可能性があるか、お互いの親疎関係に原因があったからではないかということである。

そこで、ちょっとした言葉の使い方や話のもちかけ方で人間関係に大きな影響を与え、相手の立場を脅かしかねない不満表明という言語行動を、日本語、またアラビア語エジプト方言において詳しく考察したいと思うようになった。その定義、その議論した理論、その使用ストラテジーやそれにかかわる使用背景などが、エジプト人学習者である筆者にとっては重要な研究ではないかと考えたのである。

本研究は、親疎関係の同等の立場にある相手に対して行われる「不満表明」の談話に注目し、日本語母語話者及びエジプト人アラビア語母語話者の不満表明の言語行動の特徴を「発話機能理論」の観点から分析したうえで、行う働きかけの仕方の異同を探ることを最終目的とする。本研究では、不満表明という言語行動を相互行為として捉え、不満表明とそれに対する応答に注目したロールプレイ調査方法を使用し、日本語母語話者とエジプト人アラビア語母語話者のそれぞれが、どのように不満談話を開始し、展開していくのかを明らかにしていく。

II. 本論文の構成

本稿は、5章に分かれる。

序論では、研究の背景、また研究の構成を明らかにする。

第1章「先行研究と本研究の目的」では、本研究の枠組みとなる理論、先行研究の結果を踏まえた上で、本研究の目的、研究課題を詳述する。